

令和3年度 学校評価実施報告書

京都市立伏見南浜幼稚園

教育目標

心豊かにたくましく生きる子ども ~生涯にわたる人格形成の基礎を培う~

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	R 3・10・26	学校運営協議会（書面+聞き取り）
最終評価		

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・去年に引き続き、一人一人の「今、この瞬間」が充実するように、個々を丁寧に捉え教師の援助や環境構成を繰り返し行う。
- ・保護者の保育参加を計画し、子どもと一緒に活動する経験、その中で心を動かす機会をもつ。その際、子どもの心の動きや、気持ちなど内面の育ちを保護者に伝え、子どもを理解する関わりを意識する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 日々の幼児の姿の変容やエピソード検討
- 保護者アンケート『園生活の中で、様々な成長がみられたか』

中間評価

各種指標結果

- 日々の幼児の姿の変容やエピソード検討
 - ・昨年度までの研修の成果を生かし、教職員が一人一人の子どもの『今』伸びようとしていると

ころや、課題を的確に捉え、細やかな援助や環境構成を行っている。その結果、3歳児は自らの『ありのまま』の姿を発揮し安定する姿、4歳児は自ら経験の幅を広げ、思いきり動いたり、自分の思いを言葉で発揮したりする姿、5歳児は友達の思いを取り入れて、一緒にめあてをもって取り組む姿がみられるようになってきている。

- ・保護者の保育参加は11月から積極的に行う予定である。

○保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』

- ・100%の保護者がそう思うと回答

自己評価	分析（成果と課題）
	・感染症拡大に伴い、行事などの変更を余儀なくされたが、保護者の方の理解や協力を得ることができ、ほぼ例年と同様の「育ち」がみられた。
	・前半期には保護者の方が園に入ることを避けていたことがあり保育参加はできなかつたが、ポートフォリオなどを活用し、各クラスの子どもの育ちを細やかに伝えてきた。
	分析を踏まえた取組の改善
	・保護者の保育参加の機会をもつ。 ・個別に、またクラスや園全体での育ちを引き続き、ポートフォリオやホームページ、おたよりなどで、視覚的に育ちを分かりやすく伝える。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	・日々の幼児の姿の変容やエピソード検討 ・保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	・園行事等で、参観できる機会は少ないが、保護者や地域の声から、一人一人の子どもに即した保育が行われているという声はよく聞かれる。 ・今後、感染状況を見て、運営協議会理事も必要に応じて、積極的に園の環境整備や、保護者支援にも携わることはできるので申し出てほしい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 幼小連携・接続について

具体的な取組
・年長児を中心に「学びに向かう力（特に好奇心・集中力・持続力など）」の育ちの姿を捉える。

- ・リモートも活用して、南浜小学校との教職員の合同研修や、園児と児童の交流を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
- 幼小合同の研修の回数
- アンケート項目
『自分の気持ちを伝えようとしているか』
『好奇心をもって遊んでいるか』

中間評価

各種指標結果

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
 - ・特に園内の自然環境を生かし、教師や友達と思いを交流して好奇心を高めている姿がよくみられるようになった。
 - ・特に、運動遊びや感触遊びの中で『今までの自分の殻』を自信をもって打ち破り、集中して取り組む姿がみられるようになった。
- 幼小合同の研修の回数
 - ・感染症感染拡大により、幼小が合同で集合研修することは難しい状況であったが、オンラインを活用して、幼稚園での子どもたちの育ちや教職員の援助の在り方を伝えたり、文書や短時間の交流の中で、互いの『今』の子どもたちの課題や教職員の取組などを交流し、相互理解を図ることができた。
- アンケート項目
『自分の気持ちを伝えようとしているか』 100%の保護者がそう思うと回答
『好奇心をもって遊んでいるか』 100%の保護者がそう思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学びに向かう力の中で特に重視している『好奇心』『集中力』の育ちがみられている。
- ・さらに学年に応じた取組方や配慮点を探っていく必要がある。
- ・直接集合する形態での『幼小連携』を行うことは難しかったが、新しい取組方を模索する必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・さらに5歳児では、友達同士の『高め合い』を、4歳児では、さらに集中力を高めていきたいと思われる子どももいるので、そのような子どもに対しては特にその子どもの興味や育ちに合致した活動を探ることを、3歳児は保護者に遊びの意義を的確に伝えることを大切にしていきたい。
- ・可能な方法での教職員や子ども同士の幼小連携の仕方を探る。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
- 幼小合同の研修の回数
- アンケート項目
『自分の気持ちを伝えようとしているか』 100%の保護者がそう思うと回答
『好奇心をもって遊んでいるか』 100%の保護者がそう思うと回答

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携も、感染状況により、実際に集合して行うことは難しい現状はよく理解できるが、教職員の交流や場所の共有は積極的に行ってほしい。 ・南浜地域運学校営協議会の存在もあるので、地域の『より大きなつながり』も活用しいつてほしい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果		
自己評価	<table border="1"> <tr> <td>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</td> </tr> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td> </tr> </table>	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題	分析を踏まえた取組の改善
分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題			
分析を踏まえた取組の改善			
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策		

(3) 預かり保育に関して

	具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な担当教員と教職員との話し合いの時間を確保する。 ・課題については、具体的な解決に向けての援助を明らかにし、実行に移す。 ・定期的に、預かり保育の環境を見直す。 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<input type="radio"/> アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』	
<input type="radio"/> 預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証	
<input type="radio"/> 預かり保育指導計画の見直しを進める	

中間評価

	各種指標結果
<input type="radio"/> アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』	
100%の保護者がそう思うと回答	
<input type="radio"/> 預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証	
<ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べ、利用者が増えたこと、教職員が活動内容や場の取り方を工夫したことなどにより、特に異年齢児同士の関わりが豊かになっている。互いに『安心感』や『自己有用感』を感じることができている。 	
<input type="radio"/> 預かり保育指導計画の見直しを進める	
<ul style="list-style-type: none"> ・週案の立案は、必要に応じて担当教員以外の教職員も共同で作成し、子どもたちの実態に即したものになるようにしている。子どもの姿を的確に捉え翌日や次週の保育に活かしている。 	
自己	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は増加傾向にあり保護者の方の様々なニーズに細やかに応えられるように努めている。

評価	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育の利用3歳児が多いので、活動内容の見直しを行う必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに異年齢児同士の関わりの中での育ちを育むための環境作りの工夫を重ねる。 年度末にむけて、週案の立案や記録をもとに、年間指導計画の見直しを丁寧に行う。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』 ○預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証 ○預かり保育指導計画の見直しを進める
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 18時までの預かり保育を実施していることは、ほぼ地域に浸透しきっていると思われるが、新規の学区への転入者など、周知が必要な場合もまだあると思われる。園からの回覧板やポスターなど、周知への努力も見られるが、さらに運営協議会理事も様々な会合などで広めていく。

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの育ちの芽を見逃さずに、適切な援助を行う。その際に担任を中心として、全教職員で関わる。 子どもの理解に加えて、保護者の思いも十分に受け止め、必要な子どもへの具体的支援を共に考えていく。その際に『目に見える』成長だけでなく『内面』の成長にも気付けるようにする。 <p>～未就園児クラスについて～</p> <ul style="list-style-type: none"> 入園前の保護者の子育ての喜びとともに『たいへんさ』にも十分共感できる場とする。 年間の計画や活動内容を示し、活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどで発信する。開設日を増やし、保護者のニーズにもこたえる。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証 ○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信 ○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証

中間評価

各種指標結果

○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証

- ・園児同様、一人一人の保護者の方の思いや願いを丁寧に受け止め、共に考えたり悩んだりすることを特に大切にしてきた。その中で保護者とともに子どもの育ちを喜び合える関係が築けてきている。

○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信

- ・感染症拡大により、地域の他の未就園児とその保護者の『居場所』との連携は難しかった状況であったので、必要な情報は郵送やホームページ、学区内回覧板や掲示板などで頻繁に開催状況や活動内容などを知らせるようにした。
- ・登録者数は昨年よりも増加している。

○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証

- ・未就園児クラス内の保護者同士の話し合いや、園の教職員との関わり、在園児の様子を見るこにより、未就園児クラスの保護者が育ちの見通しもったり、大人の関わりのあり方を学んだりする姿がみられた。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・未就園児クラス利用者は増加しているので、南浜地域及び周辺地域における子育て支援センターとしての役割は一定果たすことができている。
- ・さらに0～2歳児の保護者の方々の子育ての不安や悩みに応えたり、子育ての楽しさを味わつたりできるような支援を充実させていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・引き続き、子育て支援事業の周知を徹底させる。感染状況に応じて就園地域の児童館や図書館にも案内の配下をお願いする。
- ・さらに、未就園児や在園児の保護者の方々自身の『自己肯定感』を高められるような、話合いや日常の言葉かけ（相談）などに努める。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証

○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信

○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・南浜地域だけでなく、周辺学区の子育て世代のサポートとして、貢献していると思われる。さらに『口コミ』や『オンライン上』での広報活動に取り組んでいてほしい。運営協議会理事も、地域内外の会合で周知していきたい、
- ・未就園児クラスの参加者増を引き続き目指してほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
-----------------------------	----------------

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

中間評価	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の取組を学区の諸団体にも行事予定などで発信する。 ・運営協議会を中心として、子どもの活動を多様なものにする。今年度もコロナ禍においても可能な交流の仕方を模索する。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち
------	---

自己評価	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 <ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大に伴い、地域の会合はほとんどが書面実施や、中止となつたが、ほぼ月1回書面にて幼稚園の保育の様子や未就園児クラスの取り組みなどを発信している。 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の園庭の整備・芝生の育成などを通し、日常的に幼稚園の教職員以外の地域の大人の方との多様な関わりがみられる。 ・継続的な取組としては小学校とのコラボ企画として『稻の栽培』に取り組んでいる。年長児が主体となって行っているが、全園児が、運営協議会理事の方だけでなく、地域の方々の『あたたかいまなざし』と感じることができた。
------	---

	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面での交流をすることは難しいが、書面での園の取組の発信は積極的に行うことができた。 ・特別な『行事』や『取組』の中だけではなく、日常の中での様々な地域の方々との心の交流を活発に行うことができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園での育ちや、園の取組を学校運営協議会や地域の方々に、さらに詳しく明確に伝え、新入園児数の増加にもつなげていきたい。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ・運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち
--	--

最終評価	学校関係者による意見・支援策
------	----------------

- ・感染症拡大の状況下ではあるが、お米やサツマイモの栽培や園庭の環境整備などを通して、地域と園児との『生』の触れ合いを積極的に行えている。引き続き、園からの要望に応じて、行動していくつもりをしている。

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標
教職員一人一人が超過勤務時間を削減し、教育の質を一層向上させる。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域に『働き方改革』に対する理解を深める。 ・業務内容の優先順位をつける。教職員全員で業務を分担し、出来る限り勤務時間内に終業できるようとする。 ・可能な業務は電子化・ファイル化を行い、効率化を図る。
(取組結果を検証する) 各種指標
<input type="radio"/> 教職員の勤務時間の推移 <input type="radio"/> 年休や特休などの取得率

中間評価

各種指標結果
<input type="radio"/> 教職員の勤務時間の推移 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間はほぼ昨年並みを推移している ・クラス担任の業務の中で他の教職員がサポートできる業務をセレクトし、他の教職員でカバーできるようにした。その中では特に校務支援員が業務支援を特に積極的に行ってきました
<input type="radio"/> 年休や特休などの取得率 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の取得率のほぼ昨年並みを推移している。
分析（成果と課題）
<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務全体の量を減らす努力を行っているが、さらに、時間をかけて重点的に取り組みたい業務を見極め、メリハリをつけた時間配分を心掛ける。 ・引き続き、一人一人の教職員の業務を見通しをもって行うようにし、教職員全員で分担し、全教職員の超過勤務を減らす努力を行う。
分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教職員がさらに『見通し』をもって計画的に業務を行う ・園全体としても効率化できる業務の見極めを行う。（例可能な業務は電子化・ファイル化を行い、効率化を図るなど）

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ○教職員の勤務時間の推移 ○年休や特休などの取得率
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 ・様々な個別の対応や、感染症対応など、大変な状況ではあると思うが、教職員の心身とともに『健康』があつてこそ、豊かな保育であるので、さらなる効率化を図ってほしい。 そのために、環境整備など運営協議会としても支援していきたい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策